

目次

序

第一章 テスト——その理論的展開……………7

- 一、はじめに／9
- 二、古典的テスト理論／11
- 三、新しい測定理論の展開——ロードとクロンバック／17
- 四、実践的立場からみたテスト理論と将来の展望／25
- 五、むすび／32

第二章 「創造性」と二つの思考型……………41

- 一、はじめに／43
- 二、デジタル型思考の展開／52
- 三、アナログ型思考を求めて／73
- 四、「創造性」とは何か／91

第三章 再生と再認……………101

一、はじめに／103 二、ゴムブリッチの提言／106 三、記憶に  
よる現象の整理／109 四、ゴムブリッチの矛盾／116 五、創造  
的再生／123 六、むすび／130

第四章 心理学における公理……………137

一、はじめに／139 二、夏目漱石の『文学論』／143 三、ラシ  
ェフスキーの生物学の公理／146 四、ピアジェの論理学と心理学  
／151 五、公理なき心理学／157 六、心理学の公理／161

第五章 産業行動学の研究方法について……………169

一、問題／171 二、シミュレーションとしての実験／173 三、現  
実認識の視座設定の基盤としての実験／182 四、労働を内側から  
捉える方法について——シモーン・ヴェーユの『工場日記』につい  
て／191 五、ゆるぎない視座——鎌田慧のルポルタージュ／202  
六、むすび／211

第六章 芸術におけるイメージ……………217

一、はじめに／219 二、「黄不動」とイメージ／220 三、「風神

雷神図」とイメージ／227 四、浮世絵とイメージ／231 五、先  
導するイメージ／234 六、イメージによる補整／241 七、イメ  
ージの発生／246 八、イメージの形成／248 九、イメージ形成  
の原理／255 十、むすび／258

第七章 「日常性」の心理学……………265

一、問題／267 二、ベックの「普通の成人」／270 三、森鷗外  
の「日常性」の記述／273 四、ルイスの「羅生門式手法」／281  
五、コーンハウザーの「一般の労働者」／283 六、実存主義と「日  
常性」／288 七、「日常性」の悲劇／293 八、むすび／299

後記……………304

所収論文の発表年次等について